



「新時代とやまハイスクール構想」基本方針

～学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり～

令和7年3月 富山県総合教育会議



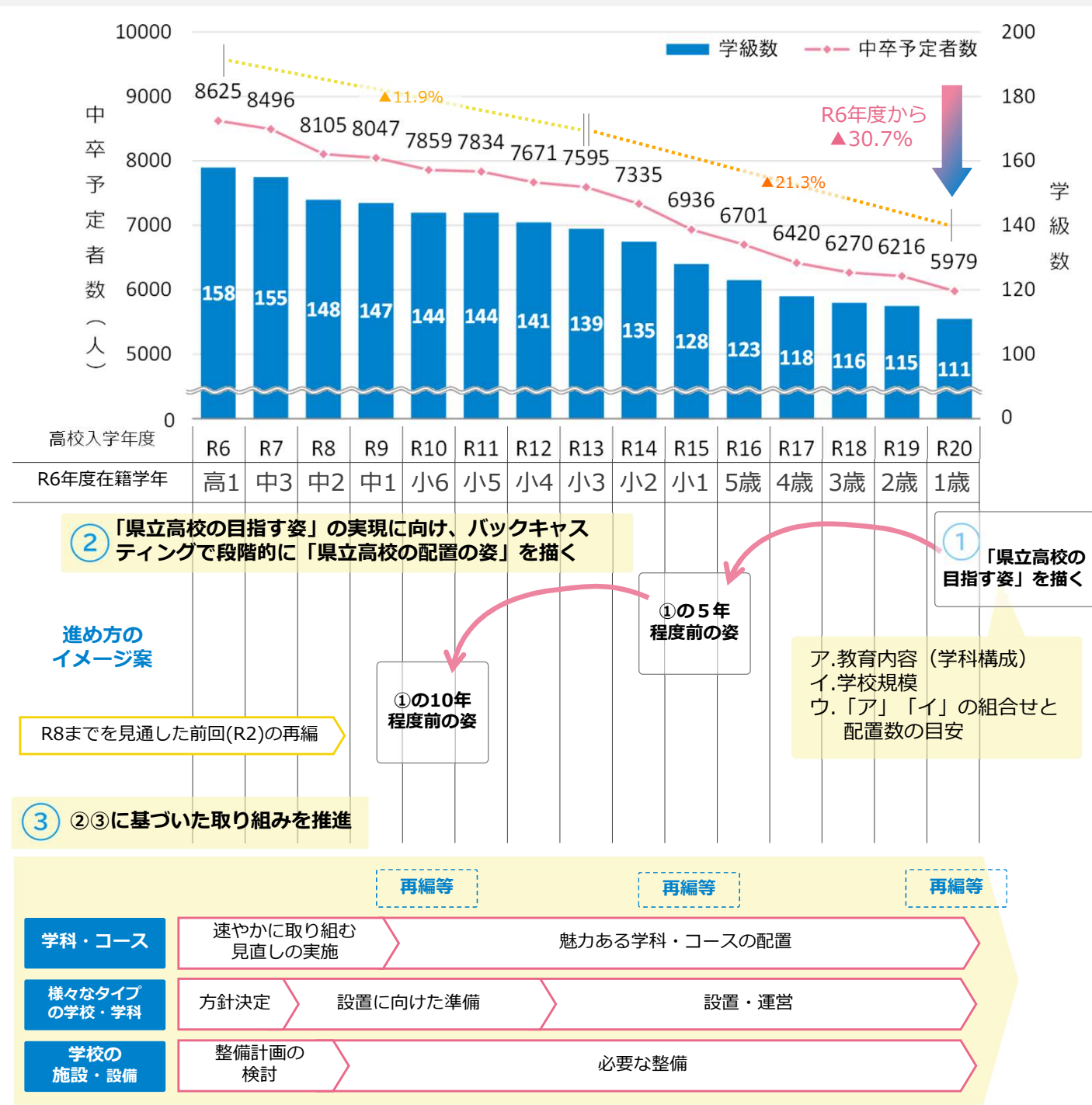
県立高校のあり方検討の進め方

全国同様、富山県における中学校卒業予定者数も年々減少しており、現在1歳の子どもが高校へ入学する令和20年度には現在より3割以上も減少する見込となっている。

こうした状況を踏まえ、今後の県立高校のあり方については、将来どのような教育を提供するのか明らかにして検討すべきというご意見が多かったことから、

- ① まずは、将来(令和20年度)の県立高校の教育内容(学科構成)、学校規模、これらの組合せと配置数の目安など「目指す姿」を描き、
- ② その5年前頃や10年前頃の「配置の姿」をバックキャストで考えたうえで、
- ③ 各段階に必要となる「再編等」の取組みを推進していくこととする。

この方向性を基本とし、今後、常に「こどもみんなか」の視点で、具体的な内容を検討する。



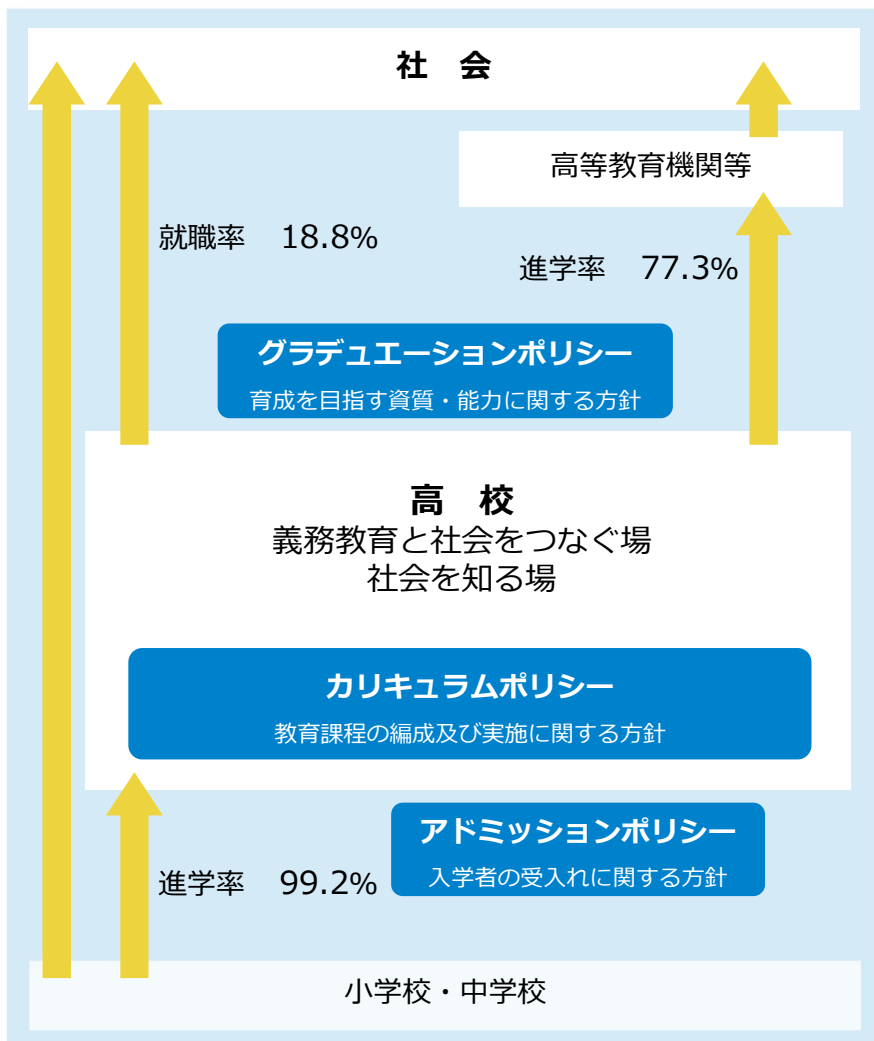
目次

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿	
1. 県立高校を取り巻く状況の変化	1
2. 県立高校の基本目標	2
3. 新時代とやまハイスクール構想	
(1) 新時代とやまハイスクール（新時代HS）の開設	2
(2) 教育内容（学科構成）	3
(3) 学校規模	5
(4) 教育内容（学科構成）と学校規模の組合せ、配置数の目安	6
II. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」	7
III. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針	8
1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合の検討方針	9
2. 学科・コースの改編等の検討方針	10
3. 様々なタイプの学校・学科の設置の検討方針	11
4. 入試制度の見直し	12
5. 施設・設備等の整備の検討方針	12
6. 活力ある学校・組織づくり	13
7. その他	13

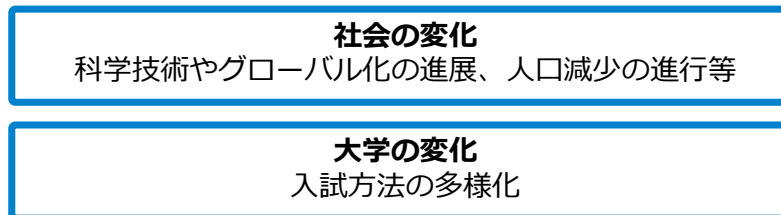
I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

1. 県立高校を取り巻く状況の変化

- これまで本県においては、生きる力を育む豊かな自然や教育熱心な県民性、熱意と使命感のある教員など、教育を支える恵まれた土壌のもと、児童・生徒の個性や能力を育む熱心な教育活動が展開され、「教育県」として高く評価されてきた。
- こうした中、近年、科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など社会は大きく変化してきており、また、生徒の興味・関心や進路希望の多様化、不登校生徒や外国籍生徒等の多様な教育ニーズへの対応も必要になるなど、教育を取り巻く環境は今後の予測が困難な「新時代」を迎えたと言える。
- この「新時代」においても高校生が明るい未来を描き、夢を叶えることができるよう、これまでの教育実績を活かしながら、これからの県立高校における教育のあり方を考える必要がある。



※進学率、就職率は令和6年度学校基本調査によるもの



今後の予測が困難な
新たな局面の到来

県立高校に求められるもの（これまでのご意見を整理）

- ① 学び続ける態度の育成、主体的な学び、探究的な学び、STEAM教育の充実
- ② グローバル教育、異文化と交流する機会、外国語教育の充実
- ③ ICTやAIを活用した学習、データサイエンスに関する学習の推進
- ④ 多様な人々と触れ合う機会、共生社会の実現に向けた意識の醸成
- ⑤ スクール・ポリシーに基づいた学校の魅力化・特色化
- ⑥ 多様な背景を持つ生徒への対応、個別最適な学びの提供
- ⑦ 生徒の進路実現に向けた指導の充実
- ⑧ 本県の産業振興を支える職業教育の充実
- ⑨ 地域や企業と連携したカリキュラム、キャリア意識の醸成
- ⑩ 教師のウェルビーイングの向上につながる職場環境の整備

生徒の変化

- 興味・関心、進路希望の多様化
- 多様な教育ニーズへの対応（不登校生徒、外国籍生徒、特別支援教育など）

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

2. 県立高校の基本目標

- ・ 社会や生徒を取り巻く現状を踏まえ、令和20年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を定める。
- ・ この基本目標を実現するため、現在の全ての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を開設する「新時代とやまハイスクール構想」を進める。

基本目標

新時代に適応し、未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、「ウェルビーイング」の向上を図る。

全ての県立高校(全日制)を再構築し

新しい学校を開設する

新時代とやま ハイスクール構想

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

3. 新時代とやまハイスクール構想

(1) 新時代とやまハイスクール（「新時代HS」という）の開設

- ・ 新時代HSは、基本目標の実現に必要と考えられる教育内容(学科構成)を組み合わせた大規模・中規模・小規模の学校で構成する。
- ・ 人口減少・少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、それぞれ特色のある新時代HSを県内にバランスよく配置し、全ての生徒にとって、「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」を推進する。

教育内容 (学科構成)

普通系学科
総合学科
職業系専門学科



学校規模

大規模校
中規模校
小規模校



バランスの 取れた配置



新時代とやま ハイスクール (新時代HS)

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

3. 新時代とやまハイスクール構想

(2) 教育内容（学科構成）

- ・ 新時代H Sで行う主な教育内容を8つに区分する。
- ・ また、「県立高校教育振興検討会議」の提言（令和6年4月）で示された「様々なタイプの学校・学科等」との親和性を整理する。

区分		教育内容	必要となる教育課程等	「様々なタイプの学校・学科等」との親和性			
				中高一貫 教育校	国際バ ^カ 加 ^リ 認定校等	外国人生徒 特別枠	全国募集
普通 系 学 科	①スタンダード	共通教科の学習を主体として、学校の状況やスクール・ポリシーに応じた教育課程の編成	共通教科を主体とした科目の開設				
	②STEAM※	卒業後の高等教育機関での研究等を視野に入れた探究活動や教科横断的な学びを実践し、問題解決能力や創造力を育む。	探究活動を充実するための教育プログラムの実施	○			
	③グローバル	国際感覚を持って海外と関わる人材を育成するためのグローバル教育を実践する。	普通系専門学科（国際）の設置	○	○		○
	④未来創造	スポーツや芸術文化、データサイエンスなど特色ある普通系専門科目を重点的に学び、部活動の強化も図る。	普通系専門科目（音楽・美術・体育・情報など）の開設				○
	⑤地域共創	地域の企業や高等教育機関等と連携した教育活動を展開するなど、独自性のある教育を実践する。	独自性のある教育プログラムの実施				○
	⑥エンパワーメント（自己発見）	様々な理由から義務教育の内容について学習不足である生徒等が、基礎学力を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育むことができる教育を実践する。	基礎学力を習得するための学校設定科目の開設			○	
⑦総合学科		入学後のキャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路に合った学びを提供する。 普通教育と専門教育を選択履修することができる。	複数の専門科目の開設			○	
⑧職業系専門学科		1年次から職業系の特定専門科目を開設し、進路を見据えた専門教育を実践する。	デュアルシステム等の特別プログラムの実施				

※STEAM: Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(リベラル・アーツ)、Mathematics(数学)の5分野の学習により、問題発見・問題解決に生かしていくための教科横断的な教育

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

3. 新時代とやまハイスクール構想

- 「⑧職業系専門学科」については、「県立高校教育振興検討会議」の提言（令和6年4月）で以下のとおり、見直しの方向性が示された。
- 今後、各学科について、これら見直しの方向性に沿って、教育内容や必要となる教育課程等を検討する。

学科	学科・コースの見直し	配置・定員設定等
農業	- SDGsの実践、AIやIoTの利活用、スマート農業技術の導入など、これからの農業に向けた知識や技術を身につけることができるよう教育内容の充実を目指す。 - 大学などの高等教育機関や地域など学校外との連携の充実を目指す。 - テクノロジーを生かした農業教育の実践、社会のニーズを汲み取った教育課程を検討することが望ましい。	地域との関わりが深い学科であり、農業を学んだ生徒が地域に残りリーダー性を発揮していることや、農業技術を継承する一定の担い手は地域に必要であることから、各学区において農業を学習できる場を配置することが望ましい。
水産	6次産業化や関連産業に寄与する生徒の育成を目指す。 - 環境保全型の水産業に関する課題解決に向けた研究、実践の充実を目指す。	生徒、産業界のニーズ等を踏まえ水産科をバランスよく配置することが望ましい。
工業	- IT技術や産業用ロボット等を活用したデジタルものづくりを推進する担い手を育成するため、教育内容の充実を目指す。 - 大学などの高等教育機関や地域など、学校外との連携の充実を目指す。 - 現在行っている新たな取組みを踏まえ、中学生により魅力が伝わるような学科改編や学科名の変更について検討することが望ましい。 - 近年多発する自然災害等を踏まえ、各学区で防災や社会基盤の維持などについて学ぶことができるよう、教育課程の変更やコースの新設について検討することが望ましい。 - 地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことができる担い手の育成等ができるよう、工業デザインに関する学科やコースの新設について検討することが望ましい。	- 各地域の企業からのニーズが高いことや、本県の産業を支える担い手を育成していく必要があることから、各学区において工業を学習できる場を配置することが望ましい。 - 中学生の選択肢を広げることができるよう、入学後に学科を選択できる一括募集の導入について検討することが望ましい。
商業	- 起業家精神を学ぶ取組みの充実を目指す。 - 商業科を普通科コース等に改編する場合の効果と課題について研究する。	- 商業科の中核となる商業科単独校は、模擬株式会社等の取組みや大学との連携など、これまでの様々な取組みを継続、充実させていくために必要な学校規模を維持することが望ましい。 - 商業科卒業生の上級学校への進学率が高いことなどから、普通科に併設された1学級の商業科については、普通科コース等への改編をするなど生徒のニーズに合ったものになるよう検討することが望ましい。ただし、他の職業系専門学科との併設により学科間の連携活動など魅力ある教育活動を進め、その必要性が高い場合は、当面存続させることが望ましい。
家庭	- 学習活動により身につけた衣食住、保育、福祉等の知識・技術を社会生活に活かし、家族やコミュニティの連帯感を育むことで人々のウェルビーイングを向上させることができる取組みの充実を目指す。 - SDGsに関連するエシカル消費や共生社会など実社会における課題解決等をテーマとし、課題研究のさらなる充実を目指す。	将来、保育士や調理師、栄養士など地域の生活関連産業分野に従事するため関連する上級学校への進学率が高いことから、家庭科の食物や被服、福祉などの教育内容が学習できる場を配置することが望ましい。
看護	- シミュレータ等最新の医療教材を用いた実習を充実させ、看護実践能力を育成することが望ましい。 - 多様な臨地実習先において、様々な職種の人々との協働的な経験を通してコミュニケーション能力や豊かな人間性を育成することが望ましい。	県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。
福祉	- 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる生徒を育成することが望ましい。 - 多職種協働やチームケアをより一層意識した協働的な課題解決型学習のさらなる充実を目指す。	県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。

3. 新時代とやまハイスクール構想

(3) 学校規模

- ・ 新時代HSは、大規模校、中規模校、小規模校で構成する。
- ・ それぞれの規模において、メリットを活かした学校づくりを進めるとともに、教育効果を高める学校運営を行う。

学校規模 学年定員	大規模校 (320人以上)	中規模校 (121～320人未満)	小規模校 (120人以下)
設置のねらい	■ 令和20年度以降も見通し、県内の拠点校として、現在の最大規模(320人)以上の大規模校を設置する。 ■ 複数の学科が併設され、多くの科目から選択履修でき、多様な考え方に接することで他者と協働して社会参画できる力をより高める。	■ 中規模校として、121人～320人未満の学校を、県内にバランスよく配置する。 ①現在の平均的な学校規模(約180人)よりも大きな学校では、教員配置及び開設科目、部活動等を充実させ、多様な仲間と協働的な学びを実践する。 ②平均的な学校規模よりも小さな学校では、将来にわたって生徒から一定のニーズが見込まれる教育活動を展開する。	■ 小規模校ならではの特色ある教育活動を展開する。 ■ 長期的なニーズや、通学時間の観点も踏まえた地域バランスなどに配慮し、生徒の選択肢を確保する。
施設等	■ 授業の展開等を考えると、現在の高校施設では運営が難しいこと、令和20年度以降も見据え、県内の拠点校として長期的に使用することなどを考慮し、新築等に対応する。	■ 現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設設備の改修等を行う。	■ 現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設設備の改修等を行う。

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

3. 新時代とやまハイスクール構想

(4) 教育内容（学科構成）と学校規模の組み合わせ、配置数の目安

- ・ 学校規模ごとのねらいを考慮し、学科構成パターンを設定する。
- ・ 令和20年度における県全体の募集定員は現在の県立全日制高校の入学率も踏まえ、4,200人程度を見込む。
- ・ 令和20年度の1校あたりの平均募集定員はそれ以降の生徒数の減少を見越して、現在(約180人)より多い200人程度に設定し、配置数の目安は全県で20～22校とする。
- ・ 全ての学校を再構築して新しい学校を開設するため、より広い範囲での学科改編が可能となるよう、配置は東西2つのエリアで検討する。

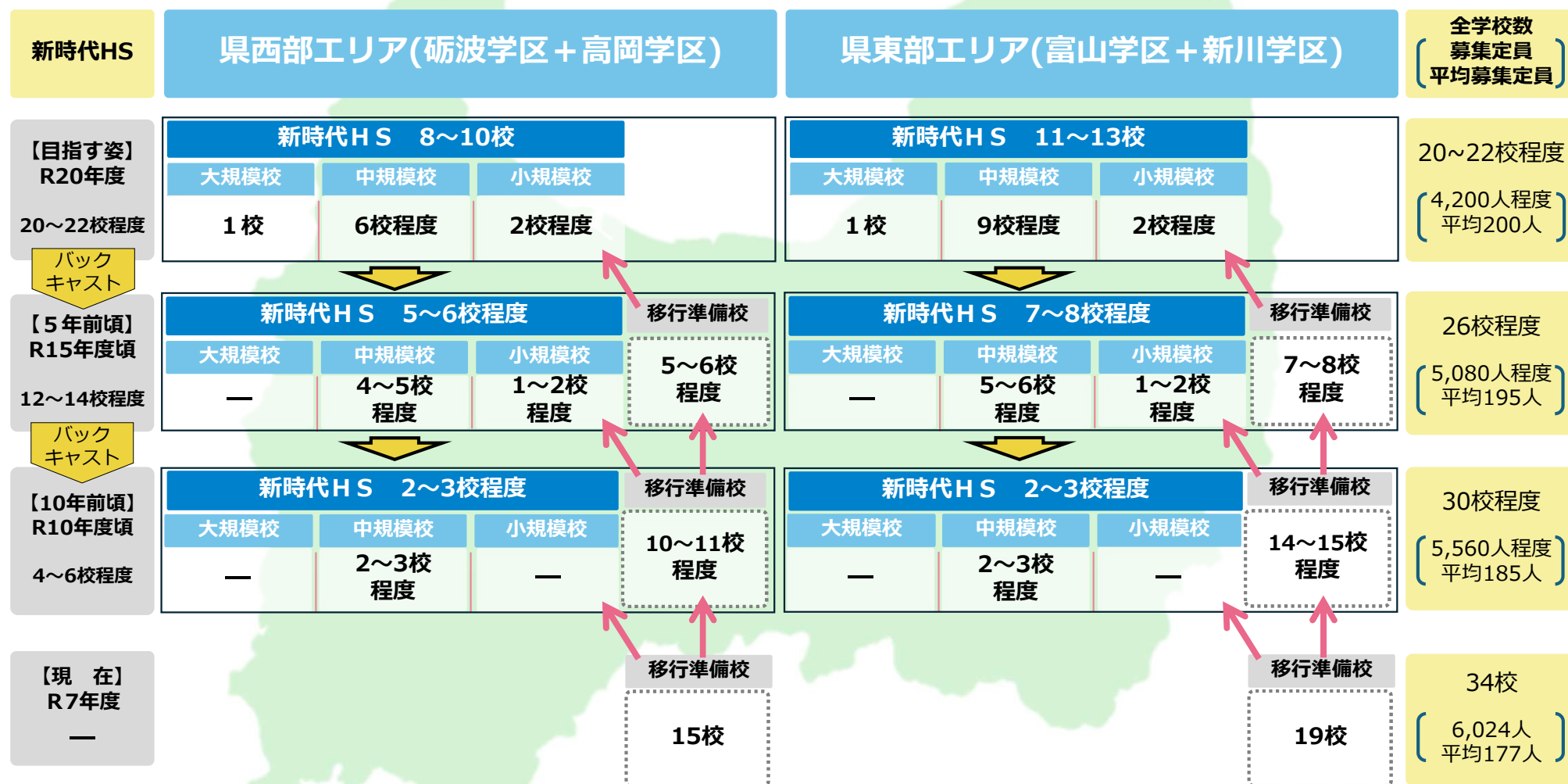
学校規模			大規模校 (1 学年320人以上)		中規模校 (1 学年121～320人未満)				小規模校 (1 学年120人以下)		
学科の構成パターン			(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)
学 科	普 通 系 学 科	①スタンダード	○	○		○		○			
		②STEAM	○	○	○						
		③グローバル	○	○	○						
		④未来創造	○	○		○		○		○	
		⑤地域共創	○	○		○		○		○	
		⑥エンパワーメント（自己発見）				○	○				
	⑦総合学科						○				
	⑧職業系専門学科			○				○	○		○

全県 (20～22校)	募集定員目安 4,200人程度	2校	8校程度	2校程度	2校程度	3校程度	4校程度
			15校程度				
県東部エリア※ (11～13校)	募集定員目安 2,520人程度 (60%)	1校	9校程度				2校程度
県西部エリア※ (8～10校)	募集定員目安 1,680人程度 (40%)	1校	6校程度				2校程度

※ 県東部エリア(新川学区、富山学区)、県西部エリア(高岡学区、砺波学区)

Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」

- 令和20年度に、20～22校を目安とする新時代HSを設置することになるため、その5年前頃（令和15年度頃）まで、10年前頃（令和10年度頃）までに目指す「配置の姿」を描く。
- 新時代HSを計画的に開設できるよう、現在の全ての県立高校(全日制)を「移行準備校」に位置づけ、学科改編等の準備を進める。
- 生徒の通学手段を考慮し、一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、エリアごとの募集定員の目安を踏まえ、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する。



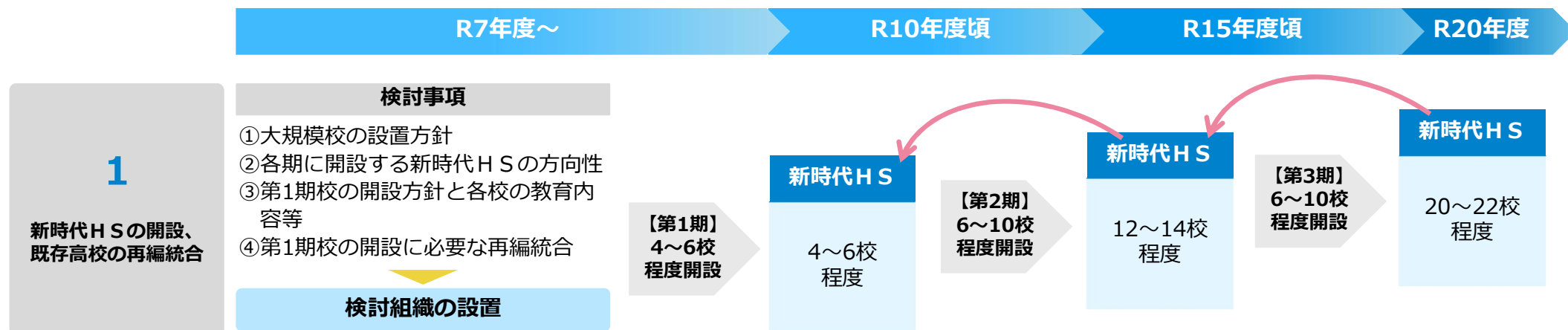
Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

- 「令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿」の実現に向け、令和20年度までに新たな新時代H Sを順次開設していくことになることから、「1. 新時代H Sの開設、既存高校の再編統合」、「2. 学科・コースの改編等」、「3. 様々なタイプの学校・学科等の開設」、「4. 入試制度の見直し」、「5. 施設・設備等の整備」、「6. 活力ある学校・組織づくり」について、計画的に進める。



Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合の検討方針



1 新時代HSの開設時期



新時代HSは、次の3つを区切りとして順次開設することとし、それぞれの期において必要となる県立高校の再編統合を実施する。

第1期（令和10年度頃まで）

大規模校の設置方針を検討したうえで、速やかに対応すべき教育課題※の解決を図る中規模校を開設する。

※グローバル教育、情報教育、誰一人取り残さない教育など

第2期（令和15年度頃まで）

大規模校の開設準備を進めるとともに、中・小規模校の充実を図る。

第3期（令和20年度頃まで）

大規模校も含めて全て開設し、「新時代とやまハイスクール構想」を完成させる。

2 令和7年度検討項目

令和7年度には、
「①大規模校の設置方針（学科構成、設置場所など）」、
「②各期に開設する新時代HSの方向性」、
「③第1期校の開設方針と各校の教育内容等」、
「④第1期校の開設に必要な再編統合」
について検討する。



3 「新時代とやまハイスクール構想検討会議(仮称)」の設置

2を検討するための組織として、令和7年度に「新時代とやまハイスクール構想検討会議(仮称)」を次のメンバー構成で設置することとし、そこでの意見を取りまとめ、総合教育会議に報告する。

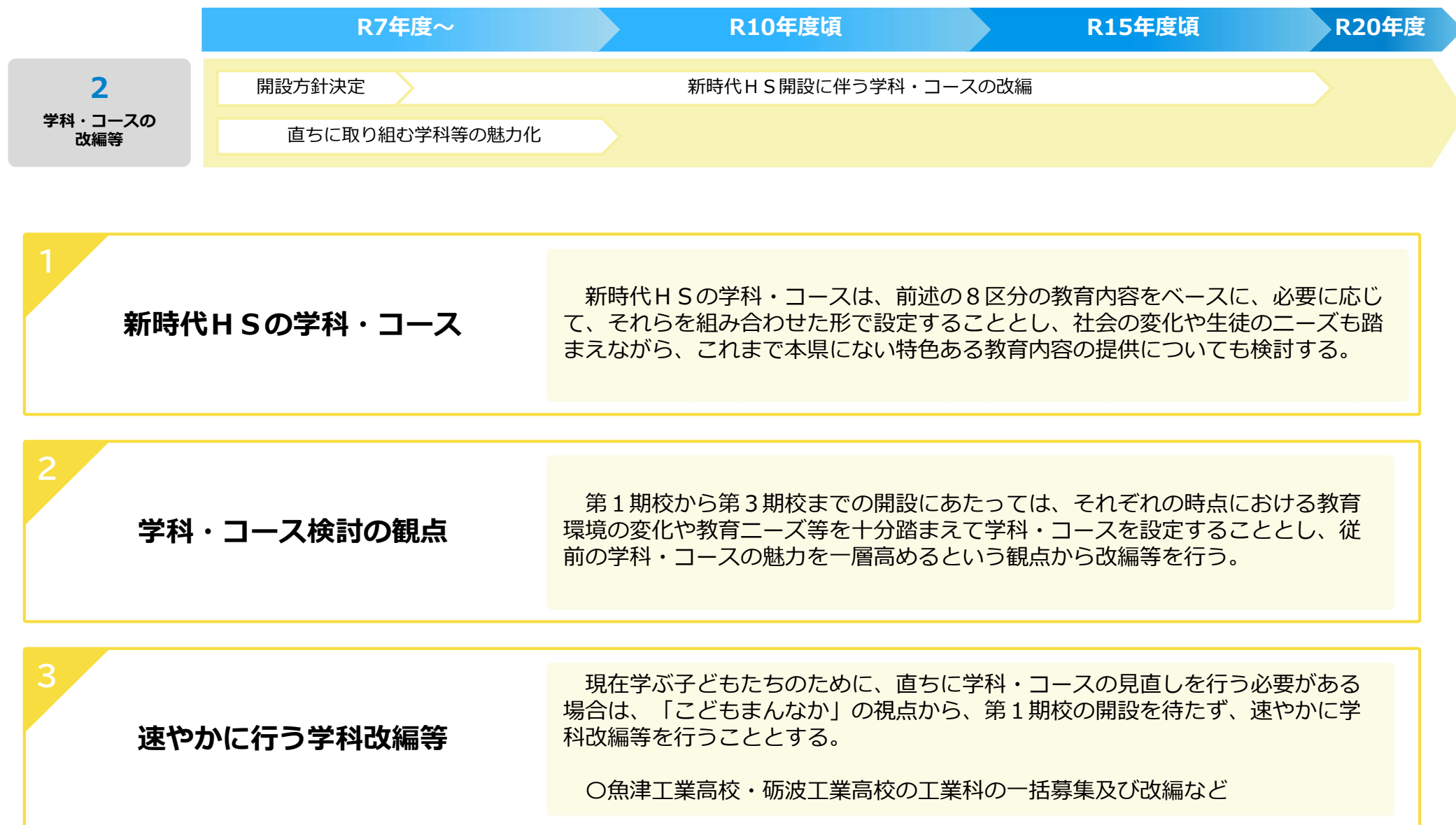
＜メンバー構成＞ ①知事(会長)、②教育長、教育委員、
③学識経験者、④経済界の代表、
⑤学校関係者、⑥保護者の代表



※第2期以降の開設に関する検討組織等については、必要に応じて別途決定する。

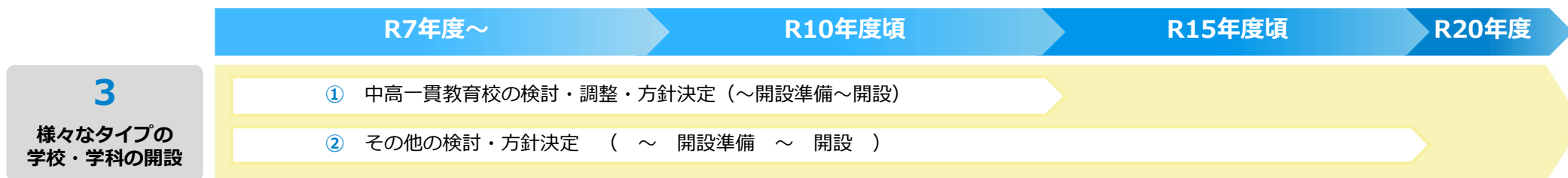
Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

2. 学科・コースの改編等の検討方針



Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

3. 様々なタイプの学校・学科等の開設の検討方針



1 新時代H Sの開設にあたっては、前述の8区分の学科との親和性を踏まえ、「様々なタイプの学校・学科等」の開設についても検討することとする。



中高一貫教育校

「中高一貫教育校」は、8区分の教育内容のうち、「STEAM」や「グローバル」について継続的かつ計画的に学べるよう、第2期での開設を目指すこととし、目的や役割・機能を十分に整理し、市町村教育委員会等の関係機関とも協議しながら、開設に向けた検討を進める。



国際バカロレア(IB)認定校等

「国際バカロレア(IB)認定校等」は、第1期にグローバル教育に重点を置く学校を開設し、その取組みを検証しながら、認定校のニーズや効果を整理し、導入の必要性等の議論を重ねる。



外国人生徒に係る特別入学校

「外国人生徒に係る特別入学校」は、第1期での開設を目指し、義務教育における外国人生徒の現状やニーズの把握に努め、入学後の教育課程や日本語指導等の支援体制に関する課題も整理しながら、導入に向けた検討を進める。

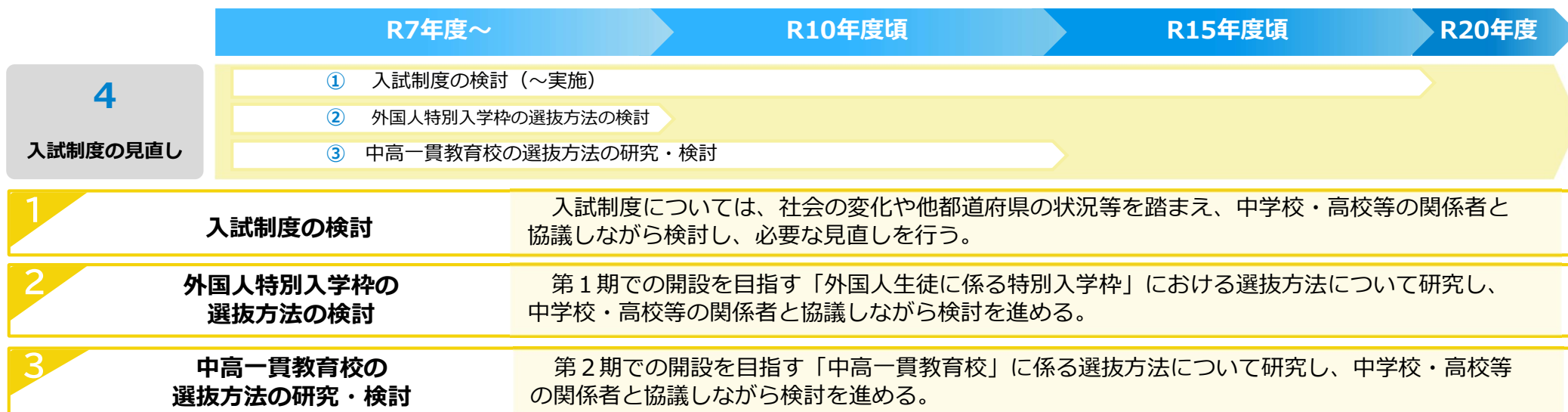


全国募集

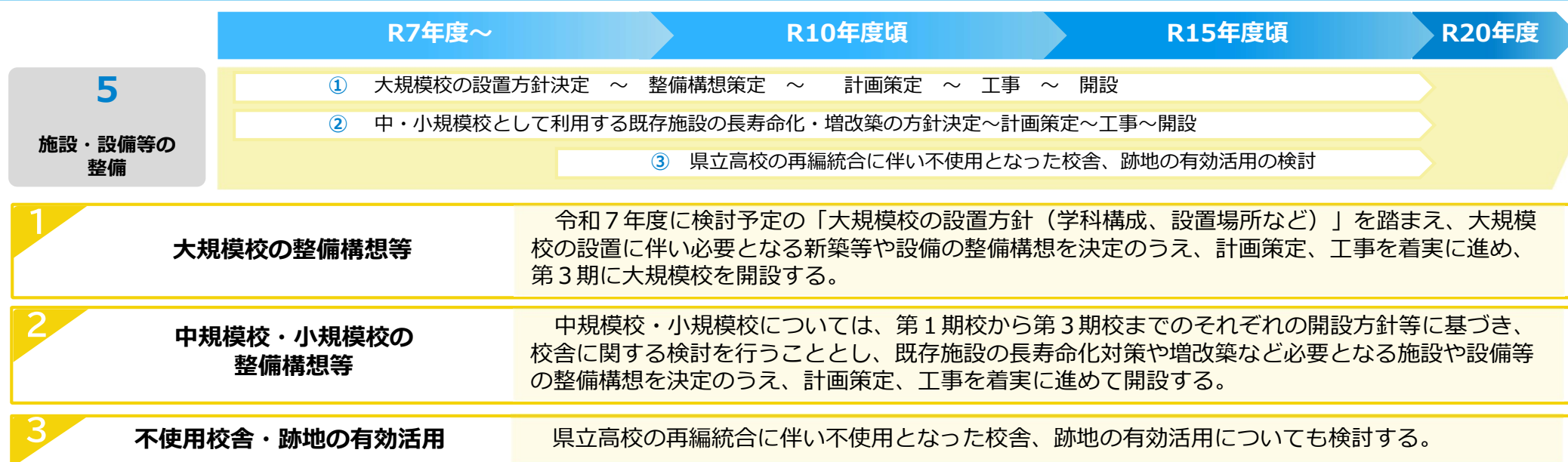
「全国募集」については、まず南砺平高校での実施が軌道に乗るよう、南砺市等と連携した取組みを進めることとし、第2期にその効果や課題等も整理し、対象校拡大の可能性を地元の意向や継続的な受入体制の構築状況等も踏まえて検討する。

Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

4. 入試制度の見直し

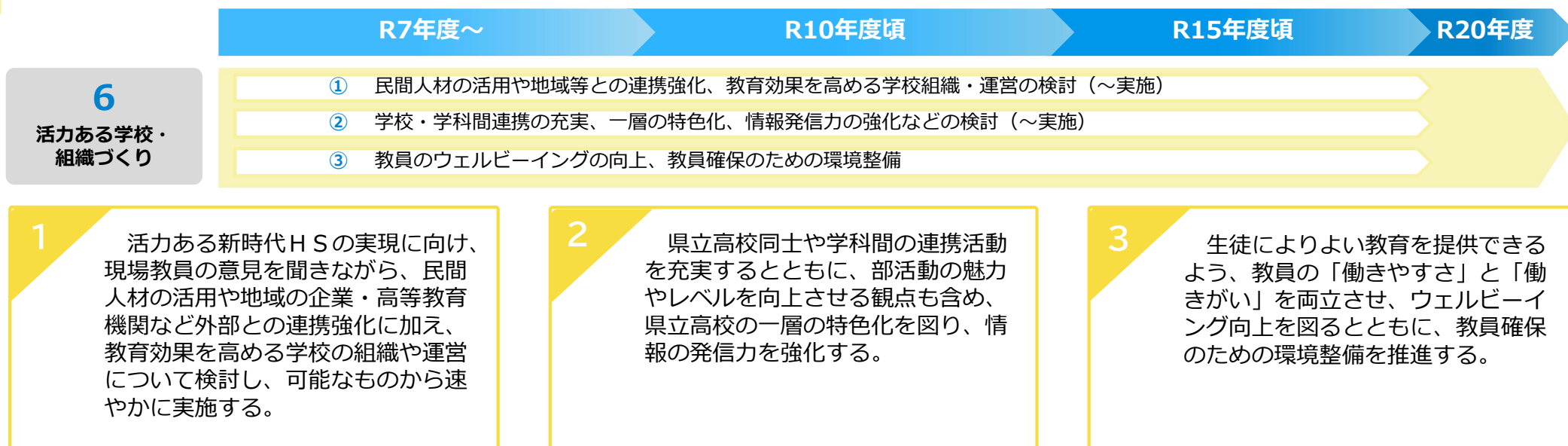


5. 施設・設備等の整備



Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

6. 活力のある学校・組織づくり



Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

7. その他

